

株式会社 産業経済新聞社 サンケイスポーツ

社会学部現代社会学科

3年 菊地 純

1. 実習企業（団体）の概要

産経新聞社は、フジサンケイグループの中心となる1社で、子会社22社と関連9社からなる産経新聞グループを構成している。サンケイスポーツは1955年2月に大阪、1963年2月に東京で創刊された。その産経新聞社が発行するスポーツ新聞、通称サンスポは時代の変化を敏感に捉え、ますます多様化する顧客のニーズに柔軟に対応している。

- ・創刊 1933年6月20日(産経新聞の前身である「日本工業新聞」を大阪で創刊)
- ・設立 1955年2月15日
- ・資本金 31億7219万8500円 ・従業員数 1863人(2016年3月31日現在)
- ・所在地 東京本社 東京都千代田区大手町1-7-2
大阪本社 大阪市浪速区湊町2-1-57
- ・代表取締役会長 太田 英昭 ・代表取締役社長 熊坂 隆光

2. 実習内容

編集局、営業局での実習。運動部、文化報道部、レース本部、整理部、サンスポコム、広告部、販売部、出版営業部、編集センター、事業部各部長との懇談。各部署の役割や業務内容の説明。編集会議、営業紙面会議から出稿。レイアウトなど新聞づくりの流れを見学。Jリーグ、プロ野球の取材、原稿執筆など担当記者の一日を見学。

3. 実習の成果

情報を扱う職業の為、情報が公開されるまで得た情報は外に出さないということが第一。今回インターンシップを受け入れていただいた新聞会社に限らず、情報は会社の財産なので扱いは慎重にしなければならないと改めて確認することができた。また、新聞という時間との勝負、掲載する情報の信憑性、敵情視察も欠かさない。そのことから毎日会議を行い、日々反省を繰り返しより良いものを作ろうとする新聞社で働く社員の方々の様子を知れた。近年スマートフォンなどの情報デバイスを扱う人口が増えたことによって、ニュース等の情報を手に入れることが容易になった。その為、情報デバイスの復旧以前に比べ売り上げは落ちたが、電子版などの新しいジャンルが生まれた。24時間体制で自宅からでも作業ができるという利点も生まれたのだ。新聞社ならではの感じさせられたのは、悪天候時は締め切りが普段の時よりも早いという事だ。加えて、一面に掲載される有名人のネームバリューなどでも売り上げに大きく関わる。そう言ったことも含め会議では各部のページの割合が大きく変わるという事も知ることができた。一面に掲載される『ネタ』は記者が手に入れてくるものだが、記者がどこまで追いかけるかが最重要となる。他にないものを使う、外でどれだけの話しを聞くことができるか、人の聞いていない話をどこまで聞けるか。この仕事には人間性、取材力が必要なのだと話していただいた。

4. 実習の感想

4日間のインターンシップだったが、学べることはとても多く今後の就職活動に活かせる内容であった。普段から目にし、知ることの出来なかったことを知れたという事も大きかった。全国で発売されるために地域の色が出ることもあり、私が所属する現代社会学科にも強く結びつく点も多いただろうと感じた。今年の夏に開催されたリオデジャネイロオリンピックの取材、号外発行の裏側まで聞けたことは作り手の努力がよく分かり、その後その記事を読むと、感じることも大きく変わった。今

後開催される東京オリンピックも新聞を通した楽しみ方ができると考える。この仕事には記事を書くことが重要なのだが、それ以外の支えがあってできているという事を強く実感することができる仕事なのではないかと私は考えている。尚且つチームワーク、コミュニケーション能力が非常に重視される。知ると気になる、気になるから結果が知りたくなる、そして新聞を買うというしっかりしたサークルが出来ている。知れば知るほど、奥が深いというのが新聞なのだとこの実習を通して私は学んだ。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	8月22日(月)	社内研修 編集局
2日目	8月23日(火)	社内研修 営業局
3日目	8月27日(土)	日産スタジアムにてJリーグの試合観戦、取材現場の見学
4日目	8月30日(火)	東京ドームにてプロ野球の試合を観戦、取材現場の見学